

ネギハモグリバエ別系統の発生について

1. 病害虫名：ネギハモグリバエ別系統 *Liriomyza chinensis* Kato
2. 発生作物：ねぎ
3. 発生の経過
令和2年8月下旬、県中央部ねぎほ場において、従来から発生しているネギハモグリバエ(以下、A系統)とは様相の異なる食害が確認された。
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門に同定を依頼したところ、遺伝子解析により県内では初確認となる別系統(以下、B系統)であることが確認された。
4. 形態等の特徴
 - (1) B系統は、A系統と形態的な差異が認められないため、外観による両系統の識別は困難である。
 - (2) 成虫の体長は2～3mmで、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である(図-1)。幼虫はウジ虫状で、成長すると体長約4mmに達する。蛹は体長約3mmで褐色の俵状である。
 - (3) 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹になる。
 - (4) B系統はA系統と比較して、1葉当たり多数の幼虫が集中的に加害する傾向がある。
 - (5) B系統による初期の食害は、A系統と同様、不規則な白線状であるが、食害が進むと近接した複数の食害痕が癒合し、白化した症状(図-2)となる。
5. 寄主範囲
B系統の寄主範囲はまだ解明されていないが、A系統はねぎ、たまねぎ等のネギ属のみ食害する。
6. 防除対策
 - (1) 本虫の発生が認められた場合、系統にかかわらずネギハモグリバエ又はハモグリバエ類に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。
 - (2) 発生源となる被害葉や収穫残さはほ場内に放置せず、まとめて積み上げ、ビニールで覆い、裾部分を土で埋め密閉するなどし、適切に処分する。

7. 資料



図-1 成虫



図-2 B系統の食害痕

【参考】A系統の食害痕
（「畑作物・果樹・野菜・花き病害虫診断
と防除のポイント（秋田県病害虫防除所
平成15年3月発行）」より抜粋）

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	